

開かれてきた女性とスポーツの扉

中野 理恵

先ごろの東京オリンピックで、みごと金メダルに輝いた入江聖奈選手の、晴れ晴れとして屈託のない笑顔には、「ボクシング大好き」の思いが溢れていて、いつまでも見ていたいほど心地よいものだった。

『ファイター、北からの挑戦者』の北は北朝鮮を指す。主人公のジナはソウルに暮らす脱北者。定着支援の研修を終え、小さなアパートで暮らし始める。まだ中国に留まっている父を呼び寄せるおカネをつくるために、ジナはせっせと働いていた。いつものように、清掃の仕事のために向かったボクシングジムで、生き活きとボクシングをする女性ユンソを見つめていると、トレーナーのテスからグローブを手渡される。

そんなある日、帰宅するとアパートを世話してくれた不動産業者の男性が、待ち伏せしているではないか。男性と揉み合っているうちに、彼に大けがを負わせてしまい、後日、高額の治療費を請求されてしまう。途方に暮れたジナが向かったのは、先に脱北していた母の処だった。母の家の近くに佇み、様子をこっそり窺うと、どうやら母は再婚し新しい夫と十代の娘とともに幸せそうである。母に駆け寄るどころか近寄ろうともしないジナ。

一方、ジムの館長から「ユンソとスパーリングを」と言われたジナは、自信に満ち、嫌みたっぷりなユンソに痛烈な一撃を喰らわす。驚く周囲に「軍隊で」と語るジナ。実は、彼女は北朝鮮の軍隊でボクシングの訓練を受けていたのだった。その後、館長とテスのもとの本格的な特訓が始まり、連戦連勝の快挙は新聞でも報じられたため、母も知るところとなり、こっそり娘のボクサーぶりを見に行くのだった。そんなある日、父が中国の公



©2020 Haegrimm Pictures All Rights Reserved

安当局に捕まった、との知らせがもたらされる…。

女子ボクシングがオリンピックに正式な競技として加えられたのは2012年ロンドン大会からだから、まだ歴史は浅いが、前述の入江選手のように着々と裾野は広がっているのではないだろうか。レスリングの吉田沙保里選手は広く知られているし、柔道では松本薫選手や谷亮子選手など枚挙にいとまがない。2010年には、日本のろう者女子サッカーチームのドキュメンタリーを製作した経験がある。選手たちの一所懸命でいながら、楽しそうな表情は10年経っても時々思い出すほど記憶に刻まれている。扉は開かれ、先入観は拭い去られ、多くの競技に女性の活躍が目覚ましい。うれしい現象だ。

主演は話題となったドラマ『愛の不時着』にも出演しているイム・ソンミ。思いを裡に秘めて、淡々と演技する童顔の表情が印象に残る。本作で2020年の釜山国際映画祭で最優秀女優賞とNETPAC賞をダブル受賞、チュサン大賞映画祭新人女優賞ノミネート等の快挙を遂げ、作品そのものも世界三大映画祭のひとつ、ベルリン国際映画祭に2021年、正式出品されている。

《Cinema Information》

『ファイター、北からの挑戦者』

韓国映画(104分) / 監督: ユン・ジェホ / 公開中

なかのりえ: 映画プロデューサー、ディストリビューター。(株)パンドラ代表。『ハーヴェイ・ミルク』を第1回配給作品として、これまでに100本を超える映画を配給し、視覚障がい者のための副音声付商業劇場上映を日本で初めて実現。著書に『すきな映画を仕事にして』(現代書館, 2018)等。